



[果樹部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

11. 簡易被覆栽培ブドウにおける晩腐病菌の動態

[要約]

前年の結果母枝及び巻きひげで越冬した晩腐病菌は、雨除け被覆下であっても降雨時に飛散し、果房に感染する。菌の飛散は降水量 0.5mm/h 未満の場合でも生じる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 病虫研究室

[連絡先] 電話 086-955-0543

[分類] 情報

[背景・ねらい]

県内の簡易被覆栽培ブドウにおいて、晩腐病による被害が恒常的に発生し問題となっている。そこで、効率的な防除法を確立するため、簡易被覆栽培圃場における本病の伝染源、病原菌の分生子形成及び飛散時期、果房への感染時期を解明する。

[成果の内容・特徴]

1. 圃場で採取した前年の結果母枝及び巻きひげには、本病原菌が生存していた（図1）。
2. 感染枝における雨除け被覆下での分生子形成時期は、主に6月上旬～9月下旬であった（図2）。
3. 雨除け被覆下での本病原菌の飛散時期は、主に6月中旬～9月下旬の降雨時であり、0.5mm/h 未満と降水量が少ない場合でも飛散が確認された（図2）。
4. 雨除け被覆下でも降雨時に果房付近に濡れが生じていた（図3）。
5. 本病の果房への主な感染時期は、5月下旬～7月上旬（開花期～袋掛け前）で、特に6月中旬～7月上旬（果粒大豆大～袋掛け前）の感染割合が高かった（図4）。

以上の結果、前年の結果母枝及び巻きひげで越冬した本病原菌は、主に6月以降に分生子を形成し、雨除け被覆下であっても降雨に伴う飛散により果房に感染する（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 試験は農業研究所病虫研究室圃場で行い、品種は「ピオーネ」（簡易被覆）を用いた。
2. 分生子形成時期、飛散時期及び果房への感染時期は当年の気象条件によって前後する可能性がある。
3. 無核化・肥大処理を介して感染している可能性は低い（データ省略）。
4. 本病は袋掛け後にも感染するため（データ省略）、収穫が遅れないよう適期収穫を心掛ける。
5. 果粒大豆大～袋掛け前の薬剤散布は特に重要であると考えられるため、散布むらのないよう十分な薬液量を、汚れ、果粉溶脱に注意して散布する。

